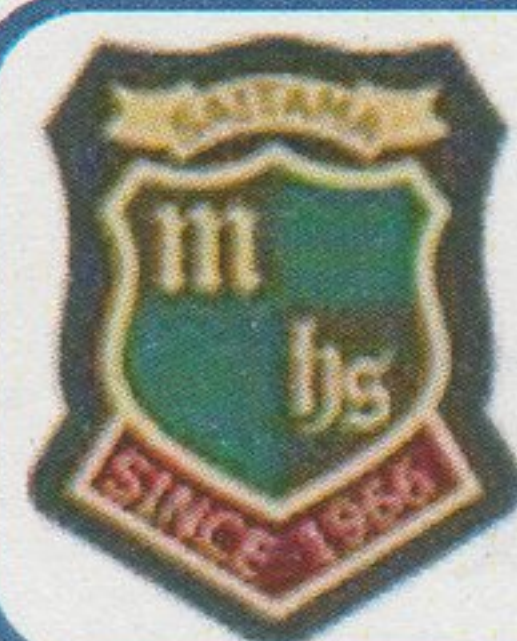




地域と共に歩むコミュニティ・スクール（商業科・情報処理科）

埼玉県立皆野高等学校



地域へ飛び出す生徒たち！「なんちゃって!?みそぽてサブレ」開発商品の販売実習

昨年7月完成、亀沢屋さんと連携した皆高生による開発商品「なんちゃって!?みそぽてサブレ」が世に出て間もなく1年半。ぜひ、町の皆さんに食べていただきたいです。

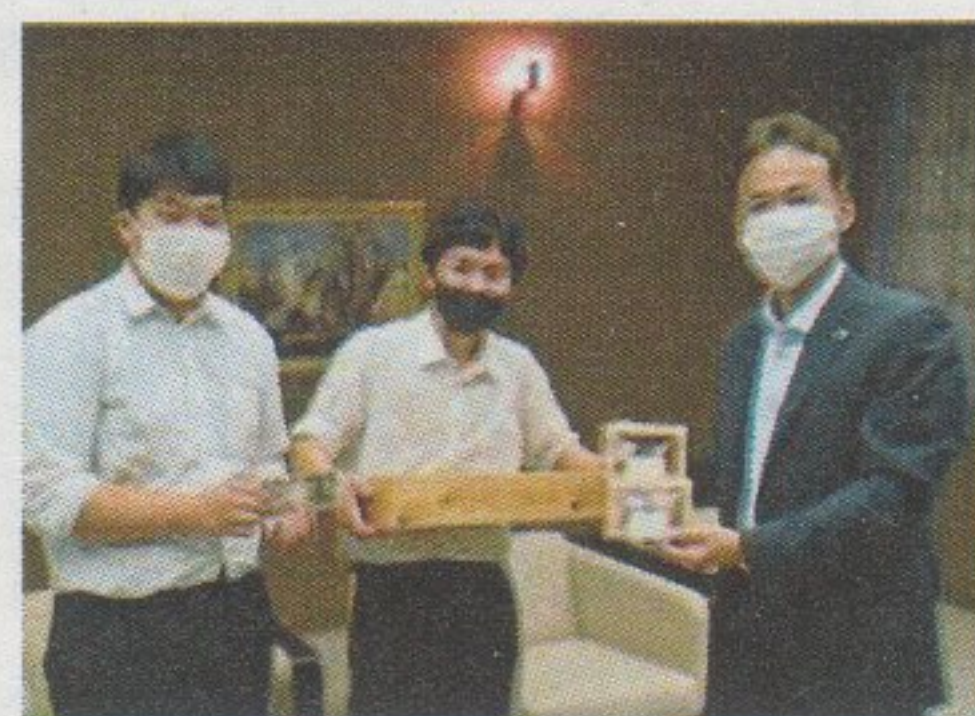
令和3年度から商業科の授業で、商品開発に向けてのアイデアを出し合い、6次産業への取り組みをスタート。令和4年3月から第1次産業として「じゃがいもの作付」を町や秩父農林振興センターの協力により開始。第2次産業として亀沢屋さんで製造加工体験を経て7月に商品完成。開発にかけた費用を、売上から回収するための具体的な販売目標なども決め、販売実習場所も検討してきました。7月15日に町役場で先行販売、販売第1号は柴崎町長、そして新井教育長をはじめ多くの町職員の方に購入していただきました。

その後、イベントなどで生徒が街で一般販売を開始。12月には町の「ふるさと納税」返礼品となりました。令和4年度は7月からの9か月で15回、5年度は、現在まで16回の販売実習を行っています。10月29日「みんなの皆野ふれあいまつり」では、「皆野高校の開発商品を知らなかった」「大阪に住んでいる息子がふるさと納税の返礼品でサブレをもらい美味しかったというので買いに来た」など、多くの町の方々に応援の言葉もいただきました。

生徒たちは授業の中で、地域活性化や地域貢献をテーマに商品開発に取り組んでいます。タブレットPCを活用して、商品のアイデアやレシピなどを共有しながら授業を進めています。秩父地域の名産品を使い試作品を考えたり、「皆野町を盛り上げたい！」という目的を持って取り組んでいます。これらの取組により、町のお土産品に向けた提案プレゼンを行い商品化され、現在、亀沢屋さんでは常時販売、西武秩父駅祭りの湯物販エリアでも販売しています。



農地借用、芋の収穫



皆野町役場で町長へ



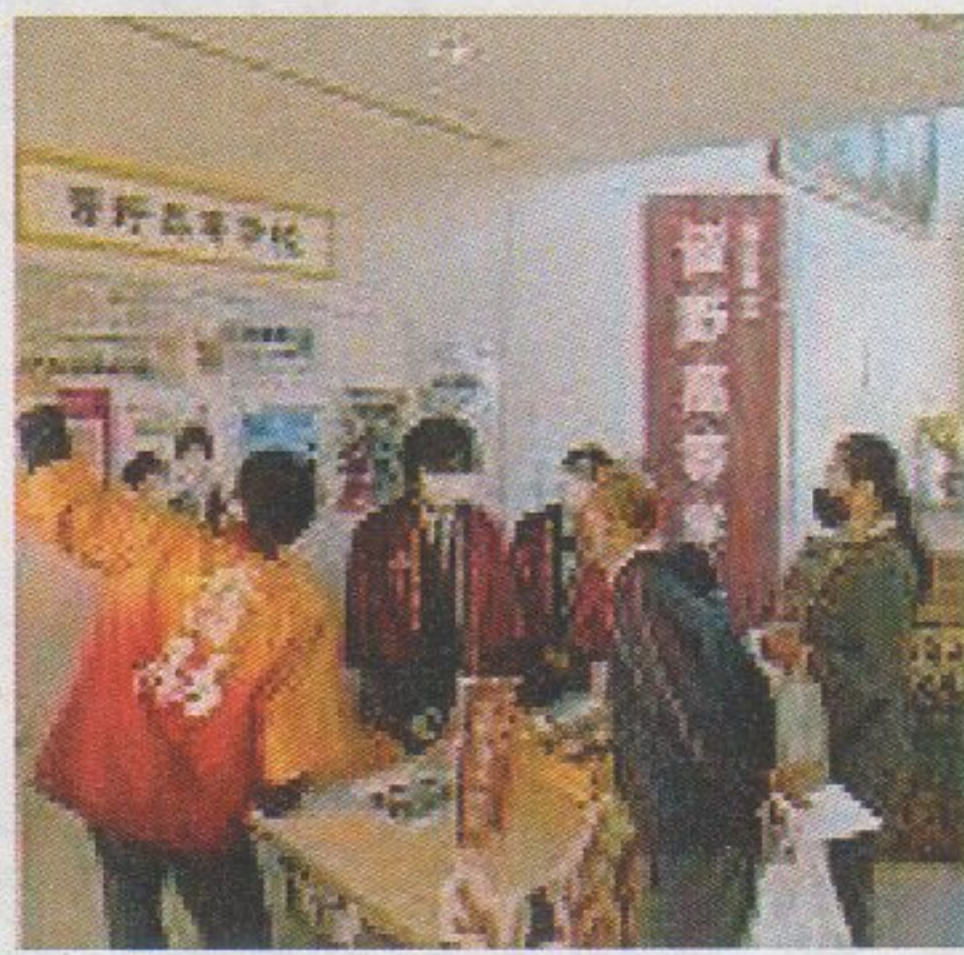
第1回長滞駅前 販売実習



皆野横丁 11月5日



ふれあいまつり 10月29日



皆小150周年 10月28日



秩父鉄道SL車内販売 6月17日



西武秩父駅 祭の湯 ちちぶみやげ市

皆野町「ふるさと納税」返礼品

皆野高校の開発商品「なんちゃって!?みそぽてサブレ」が、皆野町の「ふるさと納税」返礼品に採用していただいているのをご存じでしょうか。返礼品の紹介文章も、総合実践の授業で生徒が作成しました。感想の書き込みも掲載されていました。（下記に抜粋）

秩父名物「みそポテト」をサブレにした逸品（ゲストさん | 男性 | 50代 | 投稿日：2023年9月2日）

品名：みそぽてサブレ 40枚入り（10入り×4）【なんちゃって!?みそぽてサブレ】

秩父名物「みそポテト」をサブレにしたアイデアに脱帽です。とても美味しく、1枚あと1枚と食べたくなります。深みと甘味のある味噌味と、サブレのサクリ感の中にもポテトのホクホク感を感じさせるなど、絶妙な味わいです。地元の高校生と歴史ある地元の菓子処など地元企業が共同で開発したという点も、ストーリーがあって感動しました。そのような素晴らしい取組に応援をしてくる依頼しました。



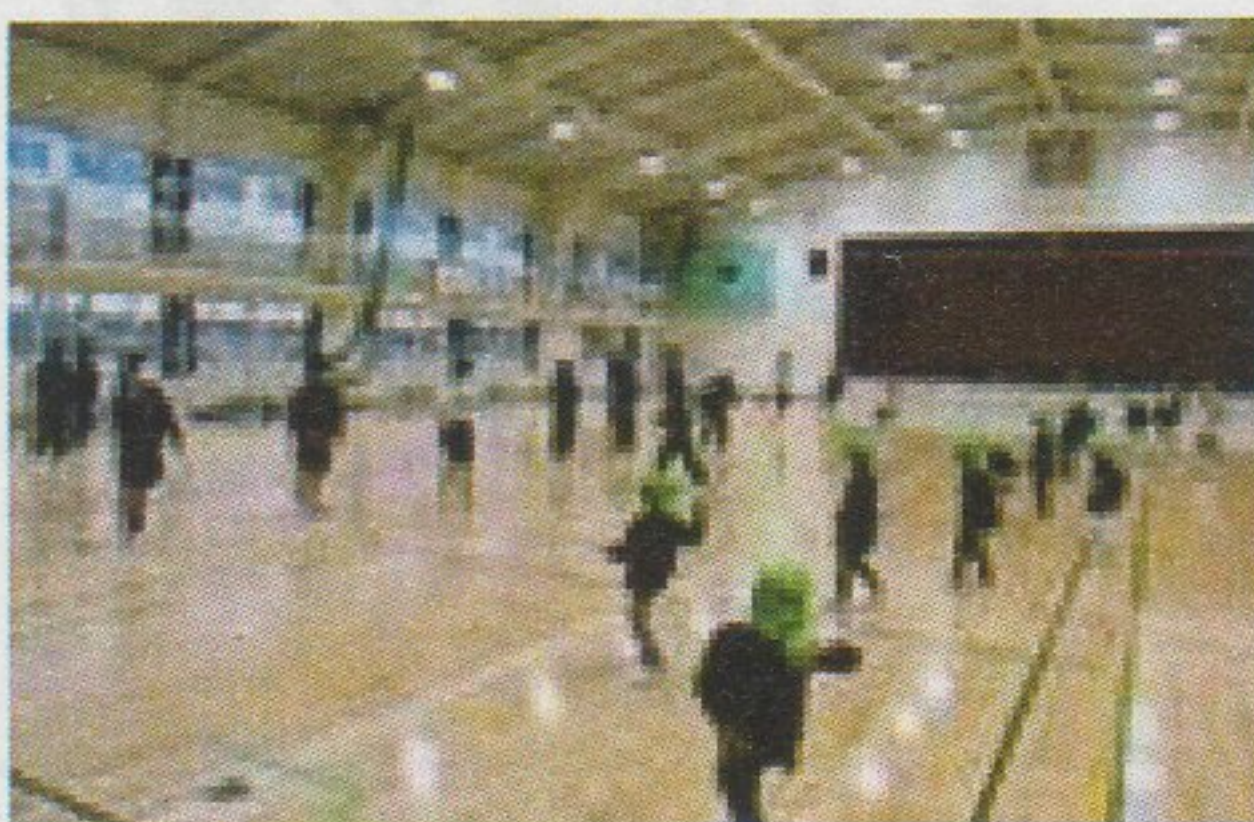
返礼品のページQR



皆野幼稚園との連携

年長組の園児が社会見学で皆野高校に来校してくれました

皆野幼稚園には、本校3年生が6月に家庭科保育分野の学習の一環で保育実習をさせていただきました。今回は、園児の皆さんが社会見学という事で高校を見学に来てくれました。生徒会役員6名がお出迎えし、図書館・PC室・体育館を案内しました。図書館では、絵本を見たり「しおり釣り」「ガシャポン」をして、みんなも大喜び。PC室では授業中の見学。「何やってるの?」「これ何?」など、質問をぶつけていました。体育館では、ボール投げしたり、走り回ったりと元気いっぱい。皆野高校の様子を見学してもらいました。本校文化祭でもぬり絵展に参加していただいたり、引き続き連携させていただきたいと思います。





県秩父農林振興センター職員に苗木育成のレクチャーを受ける生徒たち
＝20日午前、県立皆野高校

県は昨年度から、「苗木のスクールステイ」事業を実施。第75回全国植樹祭の関連行事で使用する苗木を、県内の幼稚園、小中学校、特別支援学校などに配布し、児童生徒に開校年まで育ててもらった取り組みを進めている。県秩父農林振興センターによると、同事業に参加する高校は皆野高のみ。生徒が1人1本ずつ苗木を育てるのは、事業参加校の中で同校だけだ。

同センター職員が20日に皆野高校を訪れ、生徒に植樹祭の役割や苗木の育て方をレクチャーした後、イロハモミジ、イタヤカエデ、コハウチワカエデの3種のポット苗計20本を預けた。生徒は今後、こまめな水やりや、苗木の大きさに

皆野町大淵の県立皆野高校の1年生29人が今月から、モミジなどの苗木の育成に取り組んでいる。育てた苗木は、2025年春に秩父ミュージアムパークで開催される「第75回全国植樹祭」のお手植え行事で使用される。

同校は26年度に県立秩父高校と統合し、創立60年の歴史に幕を閉じる。最後の卒業生となる現1年生は、3年生の春まで心を込めて苗木を育て、植樹祭を成功に導く。

(中野春夫)

皆野高 1年生 全国植樹祭の苗木育成

最後の卒業生大役

合わせた鉢交換などの手入れをし、25年春まで、校内で苗木の成長を見守っていく。

同校1年小林穂菜美さん(15)は「山に囲まれた環境に育ってきたので、森林再生の重要さを改めて認識した。3年生になるまでみんなで楽しく苗木を育て、充実した学校生活にしたい」と話していた。

苗木のスクールステイ

10月20日(金)、2年後の令和7年春に秩父ミュージアムパークで開催される「全国植樹祭」に向けた取組を1年生全員で行いました。

「全国植樹祭」とは、国土緑化運動の中核的な行事として、1950年(昭和25年)以降、毎年春に開催都道府県(全都道府県の持ち回り)などが主催して開催されます。国民スポーツ大会・全国豊かな海づくり大会・国民文化祭と並び「四大行幸啓」の一つに位置付けられ、天皇皇后両陛下による「お手植え・お手まき」行事が行われます。県内外の参加者による記念植樹なども行われ、この記念植樹で使用される苗木を本校1年生が育てさせていただくことになり、秩父農林振興センターの皆さまから指導いただきました。埼玉県での開催は1959年に寄居町で開催され、今回が2回目の開催となり、県をあげての国レベルの行事に参加させていただけることになりました。

植樹祭の苗木 皆野高へ

秩父で25年開催「大切に育てる」

カエデやモミジ 29人に



苗木を受け取り、水やりも習った皆野高校1年生

2025年に秩父ミュージアムパーク(秩父市、小鹿野町)で第75回全国植樹祭が開催されるのを前に、県立皆野高校(皆野町)に今月、カエデとモミジの苗木が届けられた。生徒たちが育てた後、植樹祭で植ええられる予定だ。

植樹祭に向けては、県内160以上の小中学校、幼稚園などに、苗木が配られることになった。

今年20日、1年生は視聴覚室に集まり、センター職員の講義を受けた。防災や環境保全に山の樹木が大きな役割を果たしていることや、太平洋戦争で大量の樹木が伐採され、補完を目的に植樹祭が始まったことなどを学んだほか、苗木の育て方も職員から教わった。

植樹祭の本番で最後の3年生となる高橋由妃さんは、「責任重大です。枯らさないように大切に育てます」と話していた。